



健康メモ

平成29年1.2月号

带状疱疹について

带状疱疹とは、水ぼうそうのウイルスによる感染症です。初めて感染した時には、水ぼうそうとして発症しますので、子どもの頃にかかったという方は多いと思います。このウイルスは、水ぼうそうが治っても、体の中の神経節というところに潜んでいます。そして、加齢や病気、過労などで免疫力が低下すると再び活動を始め、带状疱疹を引き起こします。

★带状疱疹の症状

带状疱疹では、皮膚症状が出る数日～1週間前から、ピリピリ、チクチクといった痛みが起こり、赤い発疹がでてきます。発疹は神経の分布の方向に沿って、体の左右どちらかに帯状に広がり、発疹の上に水ぶくれがたくさん現れます。その後、膿を持ち、かさぶたになり、2～3週間で治っていきます。ウイルスは、皮膚だけでなく、神経も攻撃しますので、神経に傷が残ってしまうと、発疹が治った後も、長期にわたり神経痛が消えないことがあります。

★かかりやすい年齢

加齢とともにかかりやすくなるため、約70%が50歳以上の方です。ただし、水ぼうそうにかかってから20年くらいすると、免疫が低下してくるため、ストレスや疲労などの多い20～30歳代の若い患者さんも珍しくありません。

★かかってしまったら

おかしいと思ったらできるだけ早く皮膚科を受診しましょう。抗ウイルス薬を早く飲み始めることが、症状を早く軽減し、回復後に痛みを残さないために重要です。薬の効果が出るまでには、2～3日かかりますので、飲み始めてからも症状が悪くなるがありますが、自己判断で中止せずに医師の指示に従うことが大切です。

★人にうつる？

水ぼうそうのワクチンを接種したことがなく、かかったこともない人には、水ぼうそうとしてうつることがあります。带状疱疹の水ぶくれの中にはたくさんのウイルスが存在していますので、出来るだけ接触しないことが大切です。

★予防接種ってあるの？

50歳以上の方に対して、水ぼうそうの予防で使用するワクチンを带状疱疹の予防でも使用することが認められました。ただし自費になります。带状疱疹の発症を予防し、仮にかかったとしても症状が軽く済みますので、関心をお持ちの方は、医療機関にご相談ください。